子供達が一齊に、
「さうですね！ さうですね！」
と言って、子供達の頭を、一人一人叮嚀にお撫でになりました。

「記念」

何處から通んで来たのか、子供達はそれは（大きなお人形を。）
一人では抱いて歩けないので何もかもついて。そして大勢でぞろくと、
園長さんの前へ連れて来ました。黒い髪の毛のふさくした、お膝枕のお人形で、誰でも一目見たら、きっと、

「さうですね！ さうですね！」

園長さんが（ひくく）して、
「まあの、有がた～、有がた～！ 有がた～！ 有がた～！
何遍も、園長さんは同じ事を仰って、お人形を、
口も親れて、笑顔で跳んで、

「おぼ、おぼ～、おぼ～…」

園長さんは嬉しけな、園長さんは嬉しけな、園長さんは嬉しけな。

赤ちゃん揺れてうれしいな。

園長さんは、お人形を大ぎさにかけ～って、子守唄のき

「さうですね！ さうですね！」

『下さまつつて！』
開かせ、この鼻を作って、唇をそっと封ばせたのは
誰だろう。

咲く花の栁を重ね着させて、紅い錦の帯縫めさせたのは
誰なのかだろう。

園長さんの心の中には、もう毎日毎夜、お人形を思いを
思い、何かがゆがんでしまいます。

來って見よ。此処に不可思議あり。

泣く者は笑ひ、

憤る者は和らがむ。

いさかふ者は相依りて手を握り、

惡みかぶ者は悪しき心を棄てむ。

苦しみはやがて癒える。

悲哀の谷の百合、

死の薔薇の火影、

來って見よ。

と現れるにはおかれません。すると、どの人もどの人も。

皆申合せたように、急にこくして。

へえ、お人形、では、はい。

と上り込んで。園長さんの「不可思議」とを見せこそおもしろ

いです、人形を遙かに見るべきは大きいものだ。

血をわけ、肉をわけて産んだ我が子、

造物主の霊を宿して産れた我が子、

造物主の霊を宿して産れた我が子、

その薔薇は天にも満ち。

「し」へ